

平成 22 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

介護予防給付該当者の作業に関する調査
—作業に関する自己評価・改訂版を用いて—

学位の種類： 修士（作業療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域
学修番号 09896609

氏名：松澤 良平

（指導教員名：小林 法一 准教授）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

【目的】新予防給付制度の創設以来、身体機能の改善が強調されている。しかし、制度の本来の目的は要支援 1, 2 の認定を受けた高齢者（要支援者）が生き生きとした生活や人生を過ごすことができるように支援することである。このためにはさらに作業へ直接関わるのが重要であると思われるが、実践例や報告例は少ない。要支援者が抱える作業に関する問題や必要としている支援を調査しニーズを明らかにすることは、作業の観点からプログラムを提供することを推進するために重要であると思われる。そこで、今回は作業に関する自己評価・改訂版（OSA II）を用い、介護保険の予防給付該当者である要支援者の作業に関する状態を明らかにすることを目的に調査を行った。

【方法】対象は A 県 B 市内の地域包括支援センターと契約している要支援者で、本研究に協力を得られた 52 名（平均年齢は 78.2±7.64 歳、男性 19 名、女性 33 名、要支援 1 は 25 名、要支援 2 は 27 名）である。OSA II は人間作業モデルに基づく評価法で、毎日の生活で行う物事や自己の環境に関する 29 の質問項目で構成された自己記入式の評価法である。全体傾向の特徴を検討し、また、介護度別、性別、および要支援者と自立高齢者のそれぞれで比較した。

【結果】対象者のほぼ全員が何らかの作業に関する問題を抱えており、その内容としては「自分の能力を上手く発揮している」、「体を使ってしなければならないことをする」、「行かなければならないところに行く」などが上位を占めていた。具体的に聴取された内容には「もっと何かしたい」「すばやく動けず家事が大変」などがあつた。また、先行研究の自立高齢者との比較では、11 項目に有意差を認め、要支援者の方がより多くの問題を抱えていることが明らかになった。

【考察】本研究の結果から要支援者のほとんどが作業に関する課題や問題を抱えていることが明らかになった。具体的に要支援者が作業に関して抱えている問題として、自己の能力を活かせる作業への参加や IADL に関連する作業の遂行に問題を抱えており支援を必要としていることが示唆された。しかし、現在の介護予防プログラムでは、作業に焦点を当てた支援は乏しい。OT は作業に関する問題を解決できる職種であり、要支援者のニーズに応えるべく作業に焦点を当てたプログラムを提供することで介護予防に貢献できると思われる。また、要支援者と自立高齢者との比較で優位さを認めた 11 項目全てで要支援者の方が“問題あり”の回答が多かった。ゆえに、作業の観点から見れば自立高齢者と要支援者を分ける質問項目といえ、介護予防の観点から注目すべきポイントと考えられる。今後は、作業の観点からプログラムを立案・実施し、今回の結果を検証する必要性がある。